

.....  
世界中の一人でも多くの人に読んで頂きたいので、翻訳できる方は翻訳して世界中に回して下さい。  
.....

発信協力:村上和雄 筑波大学名誉教授・ 武士道協会理事

:奈良 毅 東京外国語大学名誉教授

:影山幸雄 埼玉県立がんセンター泌尿器科部長・ 武士道協会理事

発信責任者:本多百代 NPO 法人武士道協会常務理事兼事務局長、ラインエイジ代表取締役\_

3・11東北大震災によりお亡くなりになられた方々には、心よりご冥福をお祈り申し上げます。また、そのご家族ご縁のある方々、被災された方々に哀心よりお見舞いを申し上げます。さぞ苦しい毎日を送られていることと存じます。日を重ねる毎に希望よりも焦燥感と疲労感が増していらっしゃることでしょう。しかしながら、どうか、世界中が応援していることを忘れないでください。そして、被災された皆様の生活態度が世界中の人々に感動を与え、生き方の手本を見せていることを忘れないでください。被災している方が、そこを取材に訪れた記者に食べ物を分け与えてくれた、という報道がなされていました。感動で涙が止まりません。なんと素晴らしい国民なのでしょう。これこそが、間違いなく先祖から受け継がれてきた生き方、大和心・武士道精神なのです。

また、福島原発で今もなお命を賭して働いてくださっている、自衛隊、機動隊、消防隊、東電関係の方々、それに、下請けの方々、本当に、本当にありがとうございます。そして、そのご家族の皆様、ありがとうございます。皆様の勇気あるお働きのお蔭で、私たちの命が助けられています。皆様の活躍は大和心・武士道そのものです。日本の誇りです。知識としてわかっていてもなかなか実行できるものではないことを、今、原子力の建設を決めた責任者でもない方々が、命を懸けてやってくさっています。そのお蔭で、今も私たちは生きて、無事に暮らすことが出来ています。感謝・感謝、ただ感謝あるのみです。

大和心・武士道は、私たちのDNAの中に生きています。どうか、神戸が蘇り世界に誇る街に復活したように、東日本もまた世界に誇れる人々が住む地として、一日も早く復興されますようにと祈り、そのために必要な協力をさせて頂きたいと切に願っております。

さてそこで、**私たちに今できることは何か？ 今必要なことは何か？** を考えてみましょう。それは、「祈り」です。祈ることです。祈りを馬鹿にしたり、軽く見たりする傾向が、現代社会に生きる人々の間に少なからず有るように感じます。そんなこと！！と思われるかもしれませんが、**祈りの力が科学的視点から認められつつある**ことを、この場を借りて多くの人々に知って頂きたいと思います。

祈りは効果があります。ぜひ、朝起きた時、食事の前後、夜寝る前、トイレの中でもお風呂の中でも構いません。寸暇を作って祈ってください。そのお手本を下記に記します。

.....

**『祈りの言葉』 奈良毅 東京外国語大学名誉教授より**

私たち人間が命を支えるために必要不可欠な空気、水、熱、土などを、常に無料で使わせてくださっている大自然の神様！ どうぞ私たちの無知に基づく傲慢なる態度をお許してください。あなた様の偉大なるお力と、寛大なる御心によって、平成 23 年 3 月 11 日、東北地方の三陸沖に起こった大地震と大津波によって命を失い、この世を去られた人々の靈魂を救い上げ、あの世で楽しく安らかに過ごせるようお導きください。

また、命からがら生き延びたものの、避難所や被害を受けた家屋内にあって、衣食住に不自由しながら毎日を過ごしているすべての人々が、一日も早く体と心の健康を取り戻し、再びそれぞれの住む家と働く場とをお与えください。

大自然の神様！ 今回の大地震と大津波によって故障した福島原子力発電所が、自動制御が利かなくなり、破壊された発電炉から現在放射線が漏れつつありますが、修復作業に携わっている人々の努力が実り、一刻も早く制御装置が再稼働して放射能の封じ込めができるようになりますように、お助け下さい。

なおこれからは、原子力発電所に頼らなくても、自然力や人工的摩擦力を利用した発電の仕組みを開発して必要なエネルギーを確保しつつ、私たち人間が慎みの心と助け合いの心をもって生きていきますので、大自然の神様！ どうぞ私たちの真心をお受け取り下さり、こうした日本人本来の伝統的な生き方が、世界中の人々のこれからの生き方の参考になりますよう、お計らいください。

.....

そして、さらに大切な事を書かせていただきます。今このような時に・・・と非難を受けるかもしれませんが、でもどうしても伝えておかなければならないことがあります。それは、人間が自分の手で消し去ることのできない物を扱う時は、謙虚になって感謝をしながら使わせて頂かなくてはなりません。それが出来ないのは、傲慢なる行為であり、時期尚早だと言うことなのです。つまり、消せないということは「その物の能力」より「人間の能力」の方が劣っているということなのです。原子力はまさにこれに当てはまります。つまり、原子力を専門の研究者以外人間が扱うのは、まだ知識や能力が不足しているということなのです。しかし私たちは、原子力のお蔭で電気を使い、明るい夜や便利な生活をさせて頂いてきました。それなのに、私たちは果たして原子力に対する感謝の念を持っていたでしょうか。便利な生活が当たり前になり過ぎて、原子力のお蔭を全く忘れ去っていたか、あるいは逆にただやみくもに原子力を忌み嫌い反対を言い続けて来てはいなかったでしょうか。原子力も地球の体の一部です。それを遣わせて頂いていることへの感謝がなかったように思います。原子力を研究している方々は、まるで原子力を我が子の様に扱っています。『早く水をあげなければ・・・』この言葉を原子力関係の方から聞いた時は、どれだけ愛情をこめていたか分かりました。原子炉も、ウランも、地球の体の一部であることには変わりありませ

ん。つまり、われわれ人間と同じ立場であることを、忘れてはならないのではないのでしょうか。それにしても研究者と利用者の間に、大きな意識の差があったことは否めない残念なことです。

ただ、今回の経験によって、私たちは原子力発電の弱さと恐ろしさの両面を知ることができたのも事実です。ですから、これからは、原子力発電に頼らなくても、太陽光や地熱や潮力や風力や水力と言った自然力、あるいは人力や機械による摩擦力を利用した発電の方法が既に実用化されていますので、それらの経済効率をさらに高める工夫や研究を推進していく必要が大いにあります。私たちは感謝を忘れて謙虚さをなくしました。お金儲けの上手な人が世の中を支配するようになってから大切なことを忘れ、まるでわれわれ人間が自然をも支配できるなどという思い上がった錯覚をする傲慢な人も出てきました。

日本人は、山、岩、石、木、川、水、火、動物・・・全てのものを神と恐れ崇め奉ってきました。水神様、ご神木、お稲荷さん、枚挙に暇がありません。それなのに、一番恩恵を与えてくれている原子力に対しては、感謝を忘れ、恩を仇で返すような行為をしてきたように思います。これでは、原子力が怒るのも無理からぬことではないでしょうか。

そこで、意識を改めて、謙虚に、素直な気持ちで、今まで私たちに明るい夜や便利な生活を与えてくれた原子力に、そして今爆発を抑えてくださっている原子力に、感謝の祈りを捧げましょう。感謝の気持ちを改めて伝え、ゆっくりお休み頂けるように祈るうではありませんか。そのお手本を下記に奈良先生から示して頂きました。

.....  
**原子力に対する『祈りの言葉』**                      **奈良毅 東京外国語大学名誉教授より**

福島原子力発電所の第一号、第二号、第三号及び第四号の原子炉の皆様申し上げます。皆様は、これまで数十年にわたり、熱蒸気を発生させてタービンを回し、たくさんの電気を私たち消費者に黙々と送り続けて来られました。それに対し、私たち消費者は、東京電力会社に使用料金を払っているから当然の権利だとして、皆様に対する敬意や感謝の気持ちを持つことなく、その供給されてくる電気をふんだんに使ってまいりました。

ところが、このたび3月11日、東北日本の三陸沖に起きた過去一千年間で最も大きな地震と津波によって、電気系統が全部破壊されてしまい、その結果あなたたちの燃料棒の冷却装置が動かなくなり、水素ガスが発生して建屋の爆発事故が起きたり、放射線に汚染された水が原子炉の外に漏れたりする事態が発生しつつあります。したがって、当然ながら皆様が送り続けてこられた電気も止まり、関東地区では、ところによっては、一日数時間ずつの計画停電が行われている現状で、今になって初めて電気の有難味を知ると同時に、それを何気なく浪費してきた自らの無知と傲慢な生活態度とに、私たち消費者はいま慙愧の念を感じている次第です。

私たちの今までのそうした過ちをお許し下さり、一日でも一時間でも早く、皆様の制御装置が回復し、放射線をこれ以上周囲に出さぬように頑張ってください。そして、やがて皆様が廃炉になった時には、静かにゆっくりお休みになり、再び自然の大地の懐に還って行ってくださいますようお願い申し上げます。

ところで現在、東京電力の関係者を初め、自衛隊員や自治体の消防隊員たちが、身の危険を感じながらも、燃料棒を冷却するための水を大量に注入したり、自動制御を回復するために電気系統の破壊された部分を修復したり、原子炉の外に漏れた放射線を封じ込めるためのあらゆる作業を行っておりますが、そうした人間側の努力が報われますよう、皆様もそれに呼応して、危険な事態を収束させるべく、側面から援助してほしいと願っております。

また日本全国各地のみならず、今や世界中の各地に建設され稼働しているすべての原子力発電所の皆様にも申しあげます。今回の福島原子力発電所の事故を他山の石として、今後いかなる自然災害や人為的災害があっても放射線が外部に漏れないような安全装置を研究開発し、さらには、皆様に頼らなくても電気が得られるような仕組みを将来人類が見出すべく、陰ながら応援してまいりますよう、心よりお願い申し上げます。

.....

武士道協会理事である**村上和雄 筑波大学名誉教授**が、ご自身の著書『人は何のために「祈る」のか』村上和雄・棚次正和共著(祥伝社)の中で、祈りについて語っていますので、ご紹介いたします。

ハーバード大学やコロンビア大学など権威ある大学が、なんと祈りの治療効果についての研究に取り組み、その成果が見られたことが報告されています。そのレポートに、私(村上和雄筑波大学名誉教授)は注目しています。

政府の予算措置も追い風となって、その種の研究例は千二百を超え、たしかに祈りの効果があるという発表が相次いでいます。

そして「精神神経免疫学」という新しい分野も登場し、人類誕生の時からあったであろう「祈り」という心の働きが、最先端の研究対象になってきつつあるのです。

ところで医学の世界では、以前から「プラセボ」という効果のあることが知られていました。プラセボとは「偽薬」とも訳されるものですが、いわば暗示や期待感といった心の作用が病気の治療に効果的であることが実証されているのです。まったく有効成分が入っていない物でも「これは素晴らしくよく効く新薬だ」と言って病人に与えると、けっこう効果が生まれるという現象で、まさに「病は気から」の逆証明になっています。

プラセボは、脳内でエンドルフィンという神経伝達物質の分泌を促して、痛みを抑えたり、免疫力を活性化したりするのです。気分をリラックスさせるのにも効果的だと実証されています。そういうこともあって「脳内麻薬」という別名もあるのが、そのエンドルフィンです。

このプラセボ効果は、正確には実験者の三人に一人位の割合で有効だと言われています。そこでプラセボ効果がみられる偽薬を、新薬が本当に効くのかどうかを検討するのに役立つとして利用されています。つまり臨床試験や実験結果で、偽の薬よりも、特段に効能が現れるのでなければ、それは偽薬

と同等か劣るということで、新薬として認められないというわけです。

この様に心の持ち方や使い方が体の状態に強い影響力があることは、よく知られているところですが、しかし祈りとなると、話が少し違います。実際、医者も含めて多くの人は、祈りが病気の治療に役立つなどとは信じていません。あるいは祈りが多少なりとも治療効果があると認める医学者だって、その多くは、これがプラセボ効果にすぎないと考えているでしょう。

しかし、アメリカ西海岸にある病院で、以下のような実験が行われた結果を、どう評価したらいいのでしょうか。それは、心臓病の患者393人を対象に行われました。

他人に祈られた患者が、そうでない患者よりも、人工呼吸器や抗生物質、透析を使用した率が明らかに低かったのです。祈りは患者に知らせないように行われています。

しかも・・・病院のある西海岸から遠く離れた東海岸からの祈りも、病院の近くからの祈りと同様の効果をもたらしたのです。もちろん患者さんは、自分が祈られていることを知りません。

祈ることを知らせず、はるか距離も離れて祈るのが効果的だとすると、暗示をかけたり、期待感を持たせたりして行うプラセボ効果とは、はっきり違います。

この祈りの治療効果については、疑念や批判が渦巻いて、まだ最終結論が導かれていないようですが、私は、この祈りの効果について興味津々です。

.....

### **筑波大学名誉教授 村上和雄先生の言葉**

私(村上和雄)どもの研究グループは、心が遺伝子のオンとオフに影響を与え、治療効果を上げることを証明しつつあります。

祈りも心の働きの一つであり、遺伝子のオンとオフに関係していると考えています。

多くの遺伝子はオフの状態にあり、オンにすることにより身体に良い影響を与える可能性があります。

.....

### **奈良毅 東京外国語大学名誉教授の著書、『身、心、神 そして直感 - 限りない幸せの道』**

奈良毅著 の中で、心のエネルギーについて語っている部分をご紹介します。

#### 地球規模の影響力を持つ心のエネルギー

さて人間は、心の持ち方を変える、想念、つまり心のエネルギーを変えるということができるはずですが。心のエネルギー、すなわち人間の想念が物を作りだしますし、したがってそれによって環境をつくり変えることもできるわけですから、いろいろと問題が複雑になってくる折から、我々は心のエネルギーの正しい使い方というものを、いっそう大事にしていかなければならないと思います。

心の問題といえますと、となく目に見えないし、科学的にはなかなか証明し難いことですから、科学者は一般にふれたがらない傾向にあります。一方、宗教家と霊能者はそれだけを重視し、それだけですべての問題が解決できるかのように考えて、人にも説いたりしますが、これも問題だと思います。人間は肉体を持ち、物を使って生きておりますから、物心両面のバランスをとって生きていくことが大切です。どちらにも片寄ってはまずいし、やはり両方を大事にする、ごく普通の常識的な考え方が大切ではないかと思えます。

心のエネルギーが肉体的に大きく影響を与えるということは、皆さますでにご存じのことだろうと思えます。実際、人間の心が作り出すエネルギーというものは大変なものです。それこそ世界の政治形態を変えとか、地球規模の環境を変えるほどの影響力をもつ場合があります。ですから、これからはそういう心のエネルギーの働きについて、もっともっと研究する必要があるかと思えます。日常生活の事を考えるだけで精一杯というときには、そんな余裕はなかったかもしれません。しかし、今日のように一般的に豊かになってきた日本人の場合は、いままで意識して活用することのなかった心の力をはっきりと捉えて開発し、それをプラスの方向に活用すべき時期になっていると思うのです。

それに関して先ず、154年前の西暦1848年にアメリカのニューヨーク郊外のある家で起こった心霊現象のことをお話してみましょ。その家にある家族が引っ越してきたわけですが、その家族には12歳と9歳の姉妹がおりました。彼女たちは引っ越してからしばらくして、自分たちの部屋で話をしてしていると、コツコツと壁を叩く音がすることに気づいたのです。最初は不気味で恐ろしかったのですが、数日たって馴れてきますと、いったいあの音はなんだろうと思ひ、これはひょっとしたら、何か目に見えない霊が音をだしているのではないかと考えはじめたわけですが。

そこでその霊と通信してみようと、指でパーンと音を出してから、ことばで話しかけ、「こちらのいうことが合っているなら、音を1回、間違っていたら2回、どちらでもないときは3回音を立ててください」と言ったのです。大変まどろっこしい方法ですから、かなりの時間がかかったことでしょうが、結局は霊との話が通じるようになり、その結果ある事実が分かったのです。

それは、その霊は商人だったそうですが、姉妹たちがここに引っ越してくる4、5年前のある日、この家に泊まらせてもらったのだそうです。ですが、その時の家主に殺害され、死体はこの家の下に埋められたのだ、ということがわかったのです。そこで、そのことを姉妹は両親に話すのですが、初めはなかなか信じてもらえませんでした。しかし、あまりにも娘たちが熱心に言うものですから、とうとう両親は人に依頼して床下をほってもらったところ、床下から実際に白骨死体が出てきたのだそうです。

こういうお話は世界各地にいろいろあると思ひますが、なぜこの話が有名な事件となったのかと言ひますと、これを学者が正式にとりあげて研究をし、やがて心霊科学として発足させる第一歩となったからなのです。つまり人間は死んだ後も霊魂として存在し続けるのであり、生前と同じように自分の意思を持ち、ある条件が整うならば、現界に通信してくるのだということが、この事件で科学的にある程度確かめられたというわけですが。

そういうことで、欧米では科学として心霊現象の研究が進められています。まあ世の中には心霊現象の名をかたった、ずいぶんいい加減なものもかなりありますが、しかし実際に間違いなく心霊現象である、という現象もあるのです。それが正しいか、どうかと判断することも大切なことですが、そういうエネルギーというものが、自分が生きている時も、死後も存在するということを認識することが、まず大切だと思います。

なぜなら、肉体を持っている、いないにかかわらず、人間の本質はそういうエネルギーを持つ霊魂であ

るということを信じられるかどうかによって、その人の日常の心のあり方、行動の基準が変わってくるからです。

.....

### 埼玉県立がんセンター泌尿器科部長 影山幸雄先生からの言葉

このたびの震災では多くの人々が瞬時に命を奪われ、あるいは最愛の家族を失い、あるいは住む所や仕事を失い、大変な苦難の中にあります。大変心がいたむ状況ではありますが、ここでは**仏教の視点から今回の件に関して私たちができることは何かということについて少しお話ししたいと思います。**

仏教では私たちの周囲で起こる全ての現象は過去に組み込まれた原因と条件によって生じており、それを引き起こす誰かがいるとは考えません。また原因も条件も複雑にからみあっており、私たちもその一部を担っています。今回の地震、津波とも「想定を超えている」との表現が跋扈しています。しかし世の中の出来事であらかじめ想定できるものなど何ともありません。明日自分が生きていくかどうかさえも予測できません。私たちの都合に合わせて、バラ色の未来を描いても人生、世の中、自然、すべてが私たちの期待を裏切って変化していきます。自然は私たちの思い通りになど動いてくれません。地震や津波は今までも私たちの予測を裏切って起こってきましたし、これからも起こり続けると思います。私たちはこのような不確実でどうにもならない世界に生きているということを正しく落ち着いて理解する必要があります。

原発事故の真相があきらかになるにつれていかに杜撰な管理がなされていたかが、明らかになりつつあります。手を抜いたり、なまけたり、けしからんと思うかもしれませんが、人間のやることは所詮そんなものです。人間は欲がからめば何でもやりますし、人間のやることに「完璧」はありません。また津波・震災によって生活基盤を支えていた水、電気、ガス、エネルギーがなくなってみると私たちが当たり前と思っていた「快適な生活」がいかにもろいものであるか思い知らされます。私たちはもはや自然の中で独立して力強く生きていくことさえできないほど様々な条件に依存してしまっています。しかもその条件はいつなんどき崩れてしまうかわからない極めて不確実なものなのです。蛇口をひねると水が出て、スイッチをいれれば電気がついて、毎日時間どおりに電車が来て、そんなごく普通の生活も様々な条件に支えられて初めて可能になる、いわば奇跡に近いことなのです。世界中の多くの人々の、そして人間以外のさまざまな生命の助けがあって初めて成り立つのです。まさに「おかげ様」なのです。

私たちは物事を「私のもの」と考えがちです。水や食料、燃料、住居、地域、国などあらゆるものを所有物としてとらえ、限りのある資源を「自分」のためにとことん使いつくそうと奔走します。世の中の多くの問題は「自分のもの」という利己的な考えから生じています。しかし水も食料もその他の資源も人間が一から作ったわけではありません。私たちは**自然からその一部を借りているだけです**。この身体さえも自分で作ることはできません。自然から得た材料を借りて生まれた身体を、同じく自然から借りた栄養を日々補給してかろうじて維持しているだけです。自分で作る事ができず、自然の恵みによって生きてい

るのはどの生命を一緒にです。みな大変な思いをして日々を生き抜いています。もし私たちが必要以上に水や食料、エネルギーなどを手元に置き、あるいは使ってしまうと必ずどこかにしわ寄せがいきます。**私たちがなすべきは、奪い合いではなく施しと分かちあい**です。そのような他を利する尊い心があればこそ、人間はここまで発展して来れたのだと思います。

最愛の家族を失ったり、住むところがなくなったり、大変悲しいことです。しかし思いがけない災難に見舞われた時に私たちがやるべきことは、いつまでも怒ったり、悲しんだり、嘆いたりすることではありません。また責任の所在を探して、誰かを犯人に仕立て上げ糾弾しても問題の解決にはなりません。誰かがその状況を作ったわけではなく、様々な原因と条件が重なった結果なのです。見方によっては私たち自身がその原因や条件の一部とも言えるのですから。また過去を振り返って後悔しても何の益もありません。怒りなどのよくない感情を掻き立てるだけで心身を痛めつけ、時間を浪費するだけです。起きてしまったことはもうどうにもなりません。勇気を持って現実に向き合い、それを受け入れ、早く立ち上がらなければなりません。私たちの意に反して次々と生じる出来事を冷静に受け止めて、何が問題だったのかを分析し、問題点を改善して、少しでも苦しむ人たちが少なくなるように未来に向けて条件を整えるように努力しなければなりません。

どうすれば私たちはより住みやすい、幸せな社会を作れるでしょうか。それは私たち一人一人が社会に貢献する人間、知性のある人間、思いやりのある人間になることです。私たちは人の心を変えることはできません。変えられるのは自分の心、自分の行動だけです。分かちあいの心、他人の幸せを願う心を持った人が一人増えれば、その分だけ世の中は暮らしやすくなります。人間社会は助け合いによって成り立っています。私たちは貴重な命をいただいています。その命があるうちに社会に恩返ししなければなりません。どのような形であれ、人々の幸せが実現するように努力し、行動すること、それが知性のある生き方です。生きる目的がはっきりすればより良い社会を作るために何をしたらよいか簡単に分かります。自分の意思や決断がぶれることもありません。そしてそのような生き方は充実感と生きる喜びを与えてくれます。お金では決して得ることができない貴重な財産です。

**仏教でも祈りは捧げます。**しかし誰かに何かをしてほしいと願うものではありません。まず自分が、知性があり、心静かで、思いやりのある人間になるようにと願います。そして周りの人々が同じように、知性があり、心静かで、思いやりのある人間になって幸せな人生を送れるようにと願います。私は無知で、不完全ですが、人々の幸せのために最も良い仕事ができますようにと願います。人々の幸せのために最も良い言葉を話せるようにと願います。人々の幸せのために多くの方々のおかげで身に付けた私の能力が最大限に生かせるようにと願います。

今回の震災は大変な苦しみを人々に与えていますが、大事なことを私たちに教えてくれています。世界中の多くの方々が、分かち合い、助け合い、思いやりの心をもって行動を起こしておられます。いさかいのあった国からも援助の手が惜しみなく差し伸べられています。助けられたり、助けたり、それが社会の基本です。助けあい、分かち合う崇高な心は人々に元気と勇気を与えてくれます。皆様が手を取り合い、励ましあい、助け合って良い社会を作ることができますように。震災にあわれた方が早く悲しみか

ら逃れ、元気を取り戻し幸せに生きられますように。

.....

どうか祈ってください。そして、皆で『亡くなられた方々のご冥福を、被災者の方々の健康と幸福を、そして、福島原発で作業をしてくださっている方々の安全とその後の健康を、そのご家族親類縁者の方々の心の安らぎを、皆さまで祈りましょう。

本多百代 “大和心を伝える” 武士道協会 常務理事兼事務局長

【特定非営利活動法人 武士道協会 <http://www.bushido.or.jp>】

きっと東日本は蘇り、世界に感動を与えながら、地球の平和の礎をなしていくことと確信しております。一人でも多くの方がこのメールを読んで頂けますように、大自然の神様と私たちの祖霊様にお祈りします。